

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立加茂農林高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月15日(火) 13:30~15:30
- 3 開催場所 加茂農林高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	山田 和浩	岐阜県農業大学校長
副会長	生駒 一成	岐阜県指導農業士(欠席)
委員	長谷川洋昭	ボランティア団体部会長
	渡辺 祥二	農業法人代表
	酒向 光世	医療法人管理職
	武田 由美	美濃加茂市教育委員(欠席)
	井戸 肇	同窓会長
	高木 史恵	P T A会長(欠席)
	学校側	大塚 浩昭
	佐藤 知子	事務部長
	金本 淳	教頭
	斉藤 寧子	教務主任
	村井 陽一	生徒指導主事
	森本 達雄	進路指導主事
	佐藤 一喜	農場長

5 会議の概要(協議事項)

- ・学校長挨拶

(1) 本校の教育活動について

- ・食品科学科生徒による学習成果の発表
- ・生徒・保護者等対象「学校評価アンケート」結果
- ・3年生進路状況
- ・学校預り金等会計の状況

意見1: 「学校評価アンケート」について令和2年度の回答率が生徒、保護者ともに25%であったのに比べ令和4年度は生徒79.5%、保護者65.2%と増加しているのはなぜか。

⇒令和2年度までは各クラスの生徒・保護者各10名、それぞれ150名(25%)を抽出して実施していたが、令和3年度からはマイクロソフトFormsを利用して全生徒、全保護者を対象に実施しているため。

意見2: 「学校評価アンケート」で学校生活について生徒の肯定的なとらえ方を大切にしたい。コロナ禍においては保護者に学校の様子をどのように知らせるかが課題で

ある。

意見3：修学旅行について1泊2日なのはなぜか。

⇒2泊3日での実施の学校もある。新型コロナウイルス感染症への対応が必要であり、感染防止の観点から本校としては1泊2日の日程とした。

意見4：修学旅行は生徒の気持ちを考えれば実施してほしいが、十分に感染症への対策を講じた上で実施する必要がある。

意見5：食品科学科生徒の発表を聞き、大きな成果を感じる。地元の小学生・中学生に本校に進学したいという児童生徒が増えている。農業高校での学びという目的がはっきりとしている点、充実した学校生活が行われている点が評価されている。

意見6：コロナ禍において不自由な学校生活を強いられ、行事も縮小・中止となる傾向にあるが、生徒の安全を確保し、感染症対策を徹底し、現状に合わせた形で実施してほしい。生徒には無事に高校に通い次のステップに進んでほしい。

意見7：私が暮らす町では人口の減少、それに伴う特産物の減少に危機感を抱いている。本校で学ぶ生徒のような技術を持った担い手がほしい。

意見8：明るい挨拶があり、素直で明るく、人との関わりができる生徒の姿があった。介護職に携わっている者として、人との関わりが持てないコロナ禍に対応していくことも大切である。

意見9：農業の担い手の育成が課題である。地域の人に認めてもらい、地域の人に助けてもらいながら生徒を育ててほしい。

意見10：本校の生徒の学びに協力する中で、他県の高校生との連携やつながりもできてきている。生徒がやりたいことをサポートし、地元の人に本校を知ってもらう機会を大切にしたい。健康につながる新たな畜産業を考えていく方向性も大切である。

6 会議のまとめ

- ・本校の取組について励ましの言葉や前向きな意見が得られた。
- ・第1回学校運営協議会において校内見学の時間を設定し、本校の学習環境や、生徒が授業・実習等に取り組む様子を見たことを踏まえ、第2回学校運営協議会においては生徒の学習成果の発表を見た上で協議することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらではあるが、できるだけ本協議会を対面で開催したいと考えている。次回以降も委員が本校で学ぶ生徒の姿を見られる機会を設定し、本校の教育活動について助言を得る機会とする。
- ・1月に予定している次回の学校運営協議会では、本年度の学校の取組と次年度に向けた学校運営方針について、委員からの助言や提言を受け、学校運営のあり方を模索しつつ、修正していく。
- ・本協議会は、引き続き学校が抱える課題を地域と共有し、委員の視点から助言を得る場としたい。